

35 矢田寺のアジサイ —アジサイの花で遊びませんか—

由佳ちゃん、きれいな アジサイのはなをありがとう。ようちえんで つくったそうですね。みずいろ むらさき うすいピンクにそめた かみでつくったアジサイのはな とてもきれいで かんしんしました。しっかり かんさつしていることに びっくりしました。

つゆで まい日、あめがふるのはいやだけど こんなきれいなはなが さくんだから つゆも いいなあ とおもいましたよ。

さて ここからさきは かんじをつかって ママにかいておきます。あとで よんでもらって くださいね。

この間、入園されたばかりだと思っていたのに、由佳ちゃんももう年長組、あんな作品を仕上げるようになっただと驚いています。

アジサイといえば、先日、大和郡山市の矢田寺に行ってきました。本当の名前は「金剛山寺（こんごうせんじ）」というそうですが、矢田のお地蔵さんの「矢田寺」のほうが有名ですね。姿を変えて私たちを助けてくださるお地蔵さんにちなんで色に変化するアジサイが昭和 40 年頃から植えられたそうです。今では 60 種、10000 株になっています。満開というには早すぎましたが、色とりどりの花がきれいでした。



本堂へ向かう参道の右側に「みそなめ地蔵」が立っております。

このお地蔵さんは味噌の味が悪くなって困っていたおばあさんの夢の中に現れて「おばあさんの作った味噌を一度持っていらっし

やい」とおっしゃったので、お地藏さんのお口に入れて味を見てもらったところ、次の年にはおいしい味噌ができたという言い伝えがあります。

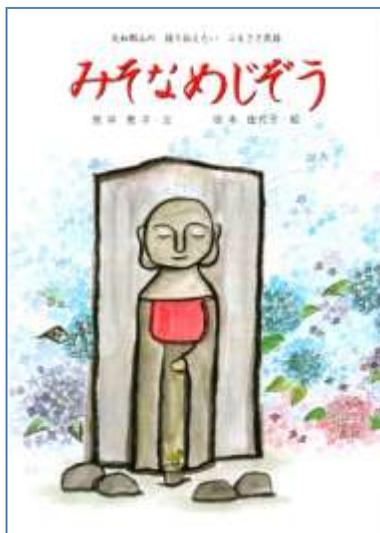
この民話は、幼稚園長をなさっている荒井恵子先生がきれいな絵本にされました。この絵本をお送りしますので読んであげてください。

次に、2年生の正彦君です。生活科の勉強で、花のしぼり汁で染め物をしたそうですね。ピンクや水

色などに染めるこの色素はアントシアンとよばれる物質です。酸性で赤っぽい色に、アルカリ性では青っぽい色に変化します。ですからちょっとお酢を入れたり、灰を入れたりすると色が変わります。理屈は後回しでいいですから、教えてあげてください。しぼり汁を赤くする物質は「赤組」、青くする物質は「青組」というように2つのなかまに分類することもできそうですね。こんなふうに遊びが広がるといいなと思います。

まだまだ不順な天気が続きそうです。お体に気をつけてください。

(平成 21 年 6 月・幼稚園年長組の由佳ちゃんとお母さん宛て)



スポットの案内

矢田寺は大和郡山市矢田町 3549 にあって電話は 0743-53-1445 です。近鉄郡山駅から奈良交通バス「矢田寺」行きが便利です。入山料は大

人 400 円，小学生 200 円です。

理科のワンポイント「酸性とアルカリ性」

小学校学習指導要領に示された「水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること」は 5 年生の学習内容です。そして、この学習は、中学校での「酸やアルカリの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ること」や「中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する」という学習につながっていきます。

「理科が苦手だねえ」とおっしゃる方でも酸性やアルカリ性を調べるリトマス紙のことは覚えておられるでしょう。あの、うすいピンク色、うす青色の試験紙です。リトマスという名前はこの色素がリトマスごけから取り出した物質で作られたからです。

今、小学校ではリトマス紙以外に B T B 液などが使われています。これはとても敏感で弱い酸性でも黄色に、中性では緑色、アルカリ性では青色に変化します。中学校での中和反応の学習に活躍する指示薬です。ほかにも万能試験紙と呼ばれるものがあります。これは酸性、アルカリ性の強さによって多様な色に変化するもので、酸性・アルカリ性の強さを表す pH が 0～14 のおおよそどれくらいかが分かります。

じゃあ、リトマス紙は過去のものなのか、決してそうではありません。リトマス紙が赤くなるのは確実に酸性であるということ、青く変化するということは確実にアルカリ性であるということなのです。

世の中、「敏感なほうが良い」というばかりではありません。それぞれの特性を知って使うことが大切なのです。剃刀の刃はすごくよく切れませんが、あれで、木をたたき切るといふわけにはいきません。斧でないと駄目なのです。どのような場合にも適材適所が大切なのです。